

## 第77回ボランティア広場

### 「団体活動講座」

1. 日 時：令和5年10月14日（土）14時～16時
2. 場 所：かわぐち市民パートナーステーション 会議室1～3
3. 講 師：街活性室株式会社 代表取締役 斎藤徹氏
4. 参加者数：11名（団体所属 10名、一般市民 1名）

#### 5. 要 旨

前半は、資料に基づき団体マネジメントの解説をし、後半はグループワークを行う。

団体運営をする上で重要な五つの要素は、ヒト・モノ（例えばパソコン、プロジェクト等の管理）・カネ・情報・時間である。この五つが上手くいけば、団体運営も上手くいくのである。

まず、「ヒト」の管理の上で大事なことは、団体の方針を明確にすること、様々な構成員の特性を把握することである。その上で構成員が実現可能な方向性で確実にマネジメントしていくことが大切である。しかしながら、団体の上席と部下では、意識の差が出てきてしまうため、その差をいかに埋めていくかが、人をマネジメントする上では重要である。

「ヒト」をマネジメントする上で、大事なことを大きく四つ挙げる。一つ目は、団体の方向性を一度で理解できる人は少ないため、何度も構成員と共有することである。二つ目は、情報を全て開示することである。情報を遮断すると、不信感に繋がるためである。三つ目は、聞く力と明確な回答である。構成員からの意見を聞いたら、その場で回答することで安心感や、やる気につながるためである。そして最後に、評価や感謝が大切である。

次に、特に問題をかかえやすい「カネ」のマネジメントについてである。市民活動団体であれば、備品や場所を借りるためにお金が必要になるため、団体は確実に収入を確保することが大切である。利益を出すのではなく、活動していく上での収入である。二つ目、支出を絞ること。三つ目が、帳票や領収書、金銭管理を確実に行う。この三つができていればお金のマネジメントは十分である。ここでも、団体の長と構成員とで意識のギャップを感じやすい。一つの解決方法としては、確実な収入源を確保することである。その方法は、イベントの実施や自作のものを販売する事業収入である。また、市や県、民間企業からボランティアを依頼される等、委託された事業収入、そして、会費を集めて収入を確保するという方法。さらに、市の補助金・助成金という収入源。最後に、寄附という方法もある。様々な事業収入があるため、考えていただきたい。

会費については、会費をいくらにするかが大事である。その際は会員に聞くのではなく、

バランスを見ながら予測して決定すると良い。また、会費を継続的にいただくために、支払者にも受けられるサービスがないといけない。継続的に改革するよう、少しずつ新しいサービスを出していくことに注意したほうが良い。例えば新規会員の開拓などである。

会費の集め方は、手での集金と銀行引き落としの大きく2つにわかれるが、多少手数料がかかっても引き落としの方が良い。理由は、人間は払うときに抵抗感があるため、毎回払っていると負担を感じる。受取る側はより負担を感じる。また、知らないうちにお金が引き落とされている点である。もし、引き落とし式を検討するならば、最初のハードルは高いが、その後が容易である。また、引き落としを解約することに手間がかかるため、その手間を考えたら毎回会費を払い続ける。当然手数料は取られるが、会員数の減少を防ぐという観点で引き落としはおすすめである。会費収入の事例では、実施施設型や情報提供型、商品提供型のサービス会費収入がある。NPO法人、市民活動団体に向いているのは人的サービス提供型である。豆知識として紹介したが、参考にされる方は調べていただきたい。

補助金・助成金については、まだ川口市の補助金・助成金を申請されていない方はぜひ検討していただきたい。採択されそうな内容であるか、採択後も間違いなく提案通り遂行することが非常に大事である。採択されたら、補助金だよりではなく、前述した委託収入や事業収入、回収といった自走できる仕組みを検討していただきたい。埼玉県助成金情報はNPOコバトン便に掲載されている。最初の一步としては、川口市の市民活動助成事業をおすすめする。助成金の資料を作るとき、自分の団体活動を再度見つめ直して整理する作業があるためである。不採択であっても、一度自分自身の団体を見直すという点で、非常にプラスになる。

寄付・協賛について大事なことは、寄付が得られそうな内容か、寄付者へのリターンがあるか。金や物のリターンではなく、例えば、感謝状やプレートを作成する等、寄付者が満足してまた寄付しようという気持ちになるため、名誉や制定、感謝の印を必ず用意していただきたい。そして、継続的に寄付を集められるような仕組みがあるか。事例として音楽フェスを挙げる。さらに、クラウドファンディングを参考までに考えていただきたい。これはウェブ上で寄付を募るという方法である。例えば、最近では社会の課題を解決するために寄付しようという機運が醸成されてきており、寄付したことで自分がどう社会貢献できるかを大事にしている。社会貢献やボランティアに対しての意識が変わってきているため、若い方を巻き込みながら検討していただきたい。

お金の会計管理はNPO法人等の市民活動団体向けに、無料運営できる会計ソフトが出ている。さらに、特にNPO法人化している方や、税務署に届け出が必要な方は、各地の無料税理士相談会、市民活動団体無料相談会や質問掲示板を使用すると費用がかからないため、ぜひ活用していただきたい。

情報のマネジメントについて大事なことは、メンバー間の情報共有、外部へ向けた情報発信、個人情報の管理である。ここでも団体の長と構成員との見解に相違がある。例えば、伝達の齟齬やイベント情報の告知方法、メンバー間の連絡方法などである。これらの差を埋め

るには、情報共有には「LINE」、情報発信には「YouTube」や「TikTok」、会議には「Zoom」、名刺交換には「Eight」等の無料ツールの活用がおすすめである。ただし、各情報発信は使用する年代が異なるので注意が必要。発信する先の年代を想定したツールを使っていたきたい。

最後にまとめとして、団体マネジメントの秘訣だが、最優先は「ヒト」との調整、第二優先として「カネ」、特に今回紹介した収入の方法や、お金の管理をしていただきたい。情報のマネジメントは、前述した中で、自身の団体と、自身が発信したい先にあったツールを無料で使うことが大事である。配布した資料を再度見直していただき、役に立つところあれば活用していただきたい。

以下は、質疑応答。

Q：会員の退会について、自分の団体はアーティスト気質な人が多く、個人が自由に加入して突然辞めるといった、コントロールが効かないのだが、どうすればよいか。

A：うまくコントロールしたとしても辞める人はどうしても辞めてしまう場合もある。一つは、新しい会員を増やすか、もしくは引留めるかどちらかである。おそらく一番いいのは、ポスターで募集したりするよりも、展示会等が皆さんの参加意欲をそそるのではないだろうか。

Q：会員の高齢化問題について、自分の団体はパソコンを使うため、高齢になるとパソコンの操作ができなくなりだんだんと人が少なくなっていく。当然会費収入もなくなり、運営費用が削減されてしまう。どうすればよいか。

A：会員の勧誘ではなく、チラシを配布してはどうか。講座に40人集まったということなら、そこで配布したチラシを見て興味がある人が連絡してくる部分は大きいのではないか。一度チラシを配布して良いか施設へ交渉してみると、おそらく会員が2人のところがもう少し増えるのではないか。

## 第77回ボランティア広場の様子

